

## 2 0 2 5 年 度 事 業 計 画

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

### 1. 基本方針

2025年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から78年目を迎えます。

新年度も当協会は、大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに、青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、永年活動を続けてきた大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、今般一部改修しました大阪フィルハーモニー会館を、市民の音楽活動の拠点として、貸出を通じた地域の音楽文化の普及・振興に活かすとともに、小中学生との共演・指導に役立て、次世代育成に努めてまいります。

これらの事業推進にあたりましては、依頼公演数、公演入場者数、各種会員数、及び会館利用者数等の増強に取り組む一方、2023年末に日本芸術文化振興会から採択されました「新たなオーケストラ支援事業」の助成金を活用し、財政的にも安定した協会運営を目指してまいります。

楽団運営は、8年目に入る尾高忠明音楽監督の下、定期演奏会をはじめ様々な自主演奏会を通じて、芸術性の高い曲目を採り上げ、持ち味であるダイナミックな演奏に加え、緻密なアンサンブル能力を兼ね備えた新たな「大フィル・サウンド」を磨き上げるとともに、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等にも努めてまいります。

### 2. 事業基盤の維持・拡大に向けた2025年度の展開

引き続き、次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の再構築と拡大を進めてまいります。

(1) 自立に向けた収益基盤の再構築

尾高音楽監督の就任以来、主要レパートリーのブラッシュ・アップを目的に、毎年様々な作曲家の作品に焦点を当てたシリーズを企画し、2024年度は生誕200年を迎えたブルックナーの初期の交響曲に取り組みましたが、

2025年度は尾高監督と2度目のベートーヴェン交響曲全曲演奏（チクルス）に挑戦し、更なる演奏力の向上を図ります。自主公演は54公演となる見込みで、文化庁学校巡回公演や企業等からの依頼公演は、小編成の室内楽公演を除き、年間56公演を見込み、合計の年間公演数は、110公演の計画となっております。

1. 自 主 公 演 （ 5 4 公 演 ）		
公 演 名	会 場	公演数
定期演奏会	フェスティバルホール	20
東京定期演奏会	サントリーホール	1
ベートーヴェン・チクルス	ザ・シンフォニーホール	5
マチネ・シンフォニー Vol.33・34	ザ・シンフォニーホール	2
ソワレ・シンフォニー Vol.25・26	ザ・シンフォニーホール	2
住友生命いずみホール特別演奏会	住友生命いずみホール	1
親子のためのオーケストラ体験教室	大阪フィルハーモニー会館	4
神戸特別演奏会	神戸国際会館こくさいホール	1
ドラゴンクエスト・コンサート	びわ湖ホール	1
3大交響曲のタベ	フェスティバルホール	1
京都特別演奏会	京都コンサートホール	1
第9シンフォニーのタベ	フェスティバルホール	2
新春名曲コンサート	フェスティバルホール	1
2025年大阪・関西万博開催記念公演	ザ・シンフォニーホール	2
新たなオーケストラ支援事業	和歌山、彦根、姫路 他	10
2. 依 頼 公 演 （ 5 6 公 演 ）		

定期演奏会は演奏技術と音楽性に磨きをかけ、コアなクラシックファンをはじめ、幅広い音楽ファンに対して弊楽団の実力をアピールするシリーズとなっています。2025年度も古典から近現代まで幅広い作品に挑戦し、尾高監督の下、世界レベルのオーケストラを目指して、伝統の「大フィル・サウンド」を更に進化／深化させていきたいと考えております。

共演アーティストも、ウラディーミル・フェドセーエフ、シャルル・デュトワといった世界的指揮者を再招聘する一方、昨年、楽団初のアーティスト・イン・レジデンスとして契約した、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席クラリネット奏者 ダニエル・オッテンザマー氏とのパートナー・シップを継続し、世界最高峰のオーケストラ・メンバーと交流を深めることで、音楽的な視野を世界に広げていきます。

また東京定期演奏会では、尾高監督が最も得意とするエルガーの作品から、交響曲 第3番（ペインによる補筆完成版）を取り上げ、その真価をしっかりとアピールしてまいります。

「名曲シリーズ」の一環として開催しております「マチネ・シンフォニー」や「ソワレ・シンフォニー」では、小井戸 文哉（ピアノ）、ティボー・ガルシア（ギター）、横坂 源（チェロ）といった魅力的なアーティストを起用し、「3大交響曲の夕べ」「新春名曲コンサート」では、初めてオーケストラを生で聴く方が「知っている曲なので聴きにきた。やっぱり生の演奏は迫力が違う」と興味を持ってもらいやすい作品を提供することで、幅広い観客層にオーケストラの素晴らしさをお届けできると考えております。尚、2017年度から取り組んでおりますゲーム音楽シリーズ「ドラゴンクエスト・コンサート」につきましても、ゴールデンウィークにびわ湖ホールで開催し、クラシックファンのみならず、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしてまいりたいと考えております。「新たなオーケストラ支援事業」の一環として、これまで本格的なオーケストラ鑑賞機会の少なかった地域での演奏会を和歌山、彦根、姫路等で取組んでまいります。

以上の通り自主演奏会をより充実させることによってファン層の拡大を図るとともに、期中においても依頼公演の受注に努力し収益基盤の再構築を図ってまいります。

会費収入の増収に向けては、引き続き、パトロネージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーに効果的に活動いただいている他、法人会員についてはチケット購入等、集客面で様々なご協力を頂きながら、新規の会員獲得活動を続けてまいります。また、寄付金につきましては、2027年に迎える楽団創立80周年に向け、演奏会や会報での寄付金募集チラシの折り込み等を通じて、ご支援の輪を広げてまいりたいと考えております。

## (2) オーケストラの体制整備

2028年3月まで契約期間を延長した3代目音楽監督の尾高忠明マエストロには引き続き公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演奏活動全般を総括していただいております。

楽団員の体制については、2025年3月1日現在67名（内、特別契約奏者のコンサートマスター2名、首席ヴィオラ奏者1名、首席チェロ奏者1名を含む）のところ、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、ソロ・コンサートマスターの崔文洙氏と、コンサートマスターの須山暢大氏の2名と契約を継続いたします。

## (3) 大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去19回の開催により、大阪の秋の風物詩として、また5万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」は、新型コロナ禍からようやく脱却し、昨年度から無料公演を中心とした従来のスタイルに戻りました。

大阪の都市魅力戦略の重点エリアでもある「御堂筋」「中之島」の活性化に資するものでもあり、2025年度も9月に、在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で多くの方々に音楽を楽しんでいただける催しとなるよう、実行委員会において協議・調整を行ってまいります。

また、次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、定期演奏会においてフェスティバルホールの3階席を学生席として、25歳以下の学生向けに1,000円という極めて安価な提供を継続しております。また、「学生定期会員」制度により、学生の皆さまには定期演奏会以外の自主公演でも割引制度等が利用していただけるようにしております。

さらに、社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生や様々な施設の皆さまを定期演奏会に無料でご招待する活動も行っており、2025年度についても継続実施してまいります。

## 3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

竣工後34年を迎える弊協会保有の大阪フィルハーモニー会館メインホール

(600㎡)を「新たなオーケストラ支援事業」助成金の活用により大規模修繕し、3階の市民スタジオ(90㎡1室、40㎡2室)と併せて、今年度は更に市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を積極的に行い、地域の音楽普及・文化振興に貢献してまいります。

#### 4. 2025年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

##### (1) 外部企業・団体との連携による公演来場者の増加とファンづくり

これまでも会員企業の福利厚生部門を通じて社内サイト等に社員向け公演情報の掲載を依頼し、来場者の増加を推進してまいりましたが、引き続き2025年度も、提携対象法人の更なる拡大、内容の充実を図り新たなファンづくりに取り組む計画です。

また、企業のCSR活動やSDGsへの参画を通じて、社会貢献並びに来場者確保も積極的に進めてまいります。

##### (2) 「2025大阪・関西万博」への取り組み

長年大阪で演奏活動を続けて来たオーケストラ（芸術団体）として、地元大阪で開催される「2025大阪・関西万博」の成功に向けて、他の在阪オーケストラ（4オケ）と協力し「広報・プロモーション」活動を継続する他、開会式での合同演奏や、万博協会後援による「第九」公演の開催を企画しております。

以上

2025年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）  
（2025年4月1日～2026年3月31日）

	2025年度予算	2024年度予算	増減
(単位：円)			
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	176,150,000	184,600,000	▲ 8,450,000
正会員受取会費	168,950,000	177,400,000	▲ 8,450,000
賛助会員受取会費	7,200,000	7,200,000	0
事業収益	632,498,000	583,815,000	▲ 48,683,000
公演収益	182,866,000	275,600,000	▲ 92,734,000
広告料収益	68,070,000	42,000,000	▲ 26,070,000
入場料収益	251,165,000	200,603,000	▲ 50,562,000
使用料収益	12,000,000	12,000,000	0
その他事業収益	118,397,000	53,612,000	▲ 64,785,000
受取補助金等	176,000,000	214,000,000	▲ 38,000,000
公的補助金収入	176,000,000	214,000,000	▲ 38,000,000
寄附金収入	106,080,000	35,000,000	▲ 71,080,000
一般寄付金収入	106,080,000	35,000,000	▲ 71,080,000
雑収益	1,000,000	3,000,000	▲ 2,000,000
雑収益	1,000,000	3,000,000	▲ 2,000,000
経常収益計	1,091,728,000	1,020,415,000	▲ 71,313,000
(2) 経常費用			
事業費	1,155,574,519	980,445,783	▲ 175,128,736
役員報酬	1,189,800	1,193,400	△ 3,600
給料手当	378,000,000	368,928,000	▲ 9,072,000
賞与	13,054,000	12,510,000	▲ 544,000
法定福利費	59,066,000	57,210,000	▲ 1,856,000
旅費交通費	91,795,306	73,466,904	▲ 18,328,402
出演費	271,549,900	179,020,000	▲ 92,529,900
音楽費	6,908,640	8,241,000	▲ 1,332,360
文芸費	8,137,890	3,831,000	▲ 4,306,890
諸謝金	1,910,000	1,257,000	▲ 653,000
会場費	90,460,000	79,011,000	▲ 11,449,000
楽器運搬費	11,280,000	8,924,000	▲ 2,356,000
外注費	4,000,000	5,000,000	▲ 1,000,000
宣伝費	12,800,000	17,496,000	▲ 4,696,000
印刷製本費	18,010,000	15,783,000	▲ 2,227,000
支払手数料	13,810,000	11,902,000	▲ 1,908,000
消耗品費	2,818,250	2,539,500	▲ 278,750
修繕費	10,856,000	6,178,000	▲ 4,678,000
賃借料	4,636,500	3,663,200	▲ 973,300
保険料	1,107,800	1,087,800	▲ 20,000
交際費	972,000	972,000	0
通信運搬費	4,441,767	3,938,856	▲ 502,911
光熱水費	10,506,309	9,432,740	▲ 1,073,569
委託費	8,007,490	7,707,280	▲ 300,210
減価償却費	41,217,858	23,638,870	▲ 17,578,988
雑費	24,275,230	22,070,032	▲ 2,205,198
租税公課	30,738,479	33,497,740	▲ 2,759,261
修繕引当金繰入額	4,678,000	4,678,000	0
賞与引当金繰入額	0	0	0
退職給付費用	29,347,300	17,268,461	▲ 12,078,839
管理費	16,242,392	13,856,729	▲ 2,385,663
役員報酬	793,200	795,600	▲ 2,400
給料手当	3,300,000	2,592,000	▲ 708,000
賞与	96,000	90,000	▲ 6,000
法定福利費	414,000	390,000	▲ 24,000
旅費交通費	1,720,694	1,461,096	▲ 259,598
通信運搬費	348,233	362,144	▲ 13,911
印刷製本費	0	0	0
支払手数料	0	0	0
消耗品費	181,750	210,500	▲ 28,750
修繕費	644,000	322,000	▲ 322,000
賃借料	363,500	336,800	▲ 26,700
保険料	32,200	32,200	0
交際費	108,000	108,000	0
支払利息	1,000,000	1,000,000	0
光熱水費	823,691	867,260	▲ 43,569
委託費	992,510	705,720	▲ 286,790
減価償却費	2,837,142	1,627,130	▲ 1,210,012
雑費	1,824,770	1,939,968	▲ 115,198
租税公課	428,221	499,760	▲ 71,539
修繕引当金繰入額	322,000	322,000	0
賞与引当金繰入額	0	0	0
退職給付費用	12,481	194,551	▲ 182,070
経常費用計	1,171,816,911	994,302,512	▲ 177,514,399
当期経常増減額	▲ 80,088,911	26,112,488	▲ 106,201,399
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 80,088,911	26,112,488	▲ 106,201,399
一般正味財産期首残高	496,805,803	406,497,814	▲ 90,307,989
一般正味財産期末残高	416,716,892	432,610,302	▲ 15,893,410
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	416,716,892	432,610,302	▲ 15,893,410

(注1) 一般正味財産期首残高に関して、2025年度予算は2024年度決算見込み値を、2024年度予算は2023年度決算値を使用

(注2) 短期借入限度額は300百万円とする

2025年度 収支予算書 内訳表 (正味財産増減計算書 内訳表)  
( 2025年4月1日 ~ 2026年3月31日 )

2025年3月13日

	(単位:円)			
	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	176,150,000	0	0	176,150,000
正会員受取会費	168,950,000	0	0	168,950,000
賛助会員受取会費	7,200,000	0	0	7,200,000
事業収益	632,498,000	0	0	632,498,000
公演料収益	182,866,000	0	0	182,866,000
広告料収益	68,070,000	0	0	68,070,000
入場料収益	251,165,000	0	0	251,165,000
使用料収益	12,000,000	0	0	12,000,000
その他事業収益	118,397,000	0	0	118,397,000
受取補助金等	176,000,000	0	0	176,000,000
公的補助金収入	176,000,000	0	0	176,000,000
寄附金収入	91,080,000	0	15,000,000	106,080,000
一般寄附金収入	91,080,000	0	15,000,000	106,080,000
雑収益	1,000,000	0	0	1,000,000
雑収益	1,000,000	0	0	1,000,000
経常収益計	1,076,728,000	0	15,000,000	1,091,728,000
(2) 経常費用				
事業費	1,155,574,519	0	0	1,155,574,519
役員報酬	1,189,800			1,189,800
給料手当	378,000,000			378,000,000
賞与	13,054,000			13,054,000
法定福利費	59,066,000			59,066,000
旅費交通費	91,795,306			91,795,306
出演費	271,549,900			271,549,900
音楽費	6,908,640			6,908,640
文芸費	8,137,890			8,137,890
諸謝金	1,910,000			1,910,000
会場費	90,460,000			90,460,000
楽器運搬費	11,280,000			11,280,000
外注費	4,000,000			4,000,000
宣伝費	12,800,000			12,800,000
印刷製本費	18,010,000			18,010,000
支払手数料	13,810,000			13,810,000
消耗品費	2,818,250			2,818,250
修繕費	10,856,000			10,856,000
賃借料	4,636,500			4,636,500
保険料	1,107,800			1,107,800
交際費	972,000			972,000
通信運搬費	4,441,767			4,441,767
光熱水料費	10,506,309			10,506,309
委託費	8,007,490			8,007,490
減価償却費	41,217,858			41,217,858
雑費	24,275,230			24,275,230
租税公課	30,738,479			30,738,479
修繕引当金繰入額	4,678,000			4,678,000
賞与引当金繰入額				0
退職給付費用	29,347,300			29,347,300
管理費	0	0	16,242,392	16,242,392
役員報酬			793,200	793,200
給料手当			3,300,000	3,300,000
賞与			96,000	96,000
法定福利費			414,000	414,000
旅費交通費			1,720,694	1,720,694
通信運搬費			348,233	348,233
印刷製本費			0	0
支払手数料			0	0
消耗品費			181,750	181,750
修繕費			644,000	644,000
賃借料			363,500	363,500
保険料			32,200	32,200
交際費			108,000	108,000
支払利息			1,000,000	1,000,000
光熱水料費			823,691	823,691
委託費			992,510	992,510
減価償却費			2,837,142	2,837,142
雑費			1,824,770	1,824,770
租税公課			428,221	428,221
修繕引当金繰入額			322,000	322,000
賞与引当金繰入額			0	0
退職給付費用			12,481	12,481
経常費用計	1,155,574,519	0	16,242,392	1,171,816,911
当期経常増減額	▲ 78,846,519	0	▲ 1,242,392	▲ 80,088,911
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減	▲ 78,846,519	0	▲ 1,242,392	▲ 80,088,911
他会計振替額			0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 78,846,519	0	▲ 1,242,392	▲ 80,088,911
一般正味財産期首残高	390,287,479	0	106,518,324	496,805,803
一般正味財産期末残高	311,440,960	0	105,275,932	416,716,892
II. 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III. 正味財産期末残高	311,440,960	0	105,275,932	416,716,892